



社会福祉法人 蓮花苑

れんげだより

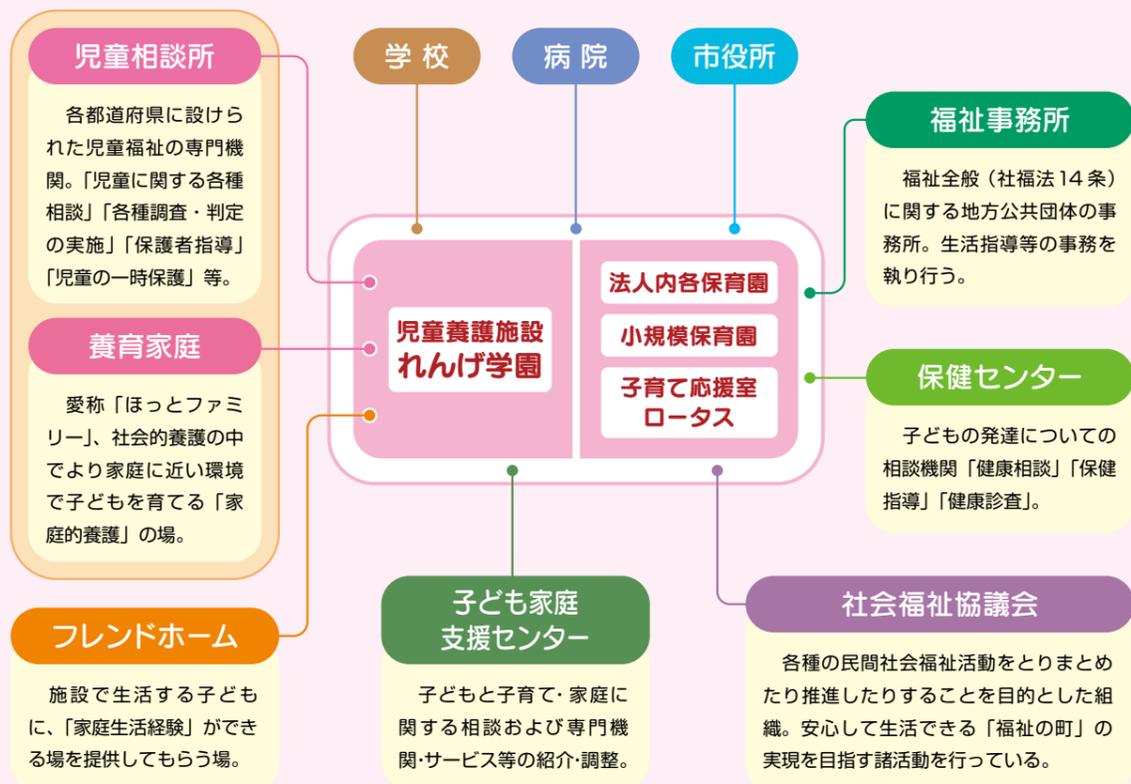


絵：3歳児画

法人理念
報恩感謝

目次	他機関との連携	1
	困難な状況下で新たな展開を	2
	れんげ学園 本園改築プロジェクト 感謝の集い	3
	めざす保育	5
	知育あそび	5
	コロナ禍での保育	7
	子どもから学んだこと、気づかされたこと	9
	保健	11
	給食	12
	令和2年度会計報告	13
	後援会員及び寄付者芳名	14

他機関との連携



困難な状況下で新たな展開を

社会福祉法人 蓮花苑 理事長 佐々木晶堂

令和4年度を迎えるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

一昨年度、昨年度に引き続き、今回もまたこの「れんげだより」の冒頭に新型コロナ・ウイルス（COVID-19）の感染状況について言及せざるを得ない事を残念に思います。我が国に於いては、令和3年8月をピークとする第五波までの感染拡大・縮小を繰り返して来た後に、明確な理由や原因を特定できないままに10月以降は急速に感染が鈍化してこのまま沈静化するのではないかと期待させる時期もありました。ところが令和4年が明けてから変異種オミクロン株による感染爆発の第六波が従前以上の速さと規模で進行している状況となりました。当法人に於いてもこの間、日々の保育にあっても予防に細心の注意を払い、種々の行事の遂行にも工夫をこらして参りましたが、2月に入ってから園児・保護者や職員の感染により年齢別クラス単位での一時的休園を余儀無くされる保育所が出て来てしまう状況とすらなりました。幸いにしてその後の更なる感染拡大は見られないので、旧に倍しての注意を払いながら業務を遂行して行く所存です。「克服できないリスクは無い」と言ってしまうのは言い過ぎ、おこがましいかもしれませんが、「上手に付き合っ行って行けないリスクは無い」とは言えると思います。一昨年も昨年も述べましたが、それでも私はこれ迄蓄積して来、これからを切り開いて行く「人類の智慧」を信じておりますので、私達一人一人がその一翼を担えるように努力して行く事が肝心だと考えております。

さて、今回の「れんげだより」に於きましては「めざす保育」をテーマに、こうしたコロナ禍の困難な状況にあっても蓮花苑としての保育の質を維持・向上して行くべく尽力している職員の姿を、導入してから5年以上経過して大分定着してきた知育遊びを軸として、皆様にご理解して頂くように企画致しました。いかなる状況下でも種々のリスク等に対応しながら成長して行く職員の姿の一端を紹介できればと思います。

尚、こうした当法人の保育事業の出発地点となりましたれんげ保育園ですが、平成20年代に改築致しました南棟東棟を除く本棟は昭和40年代末に改築されたままで約50年間が経過して都度必要に応じて修繕や耐震補強を施してきたとは言え雨漏り等の老朽化が目立って来たところから、民間施設老朽化改築の対象として建て替える事を企画して東大和市を始めとする行政側との交渉を進めて来ましたが、いよいよ具体的な作業に入るところとなりました。これから計画の詳細を詰めて行き令和5年度を本体の建設期間として予定しております。工事期間中は園児・保護者の皆様にご不便・ご迷惑をかける事もあろうかとは思いますが、宜しくご理解・ご協力をお願い致します。子どもたちにとって余裕のある空間作りをするだけでなく、情操教育等の観点からも有効活用できるような空間・雰囲気作りも企画しており、完成後は単に市の保育需要に対応するだけでなく、上述した「めざす保育」の実現を容易にする環境整備や北多摩西部地域での子育て支援の拠点となる事もめざした、当法人の保育事業の旗艦としての機能を全うできるものとして行きたいと考えております。

又、れんげ学園の改築事業に関しましては、令和2年度末にハードウェアの整備を完了し、コロナ禍により完成記念式典の開催を断念しその代替として昨年12月に限られた関係者をお招きしての完成の報告と感謝の集いの開催を以て一旦区切りをつけさせて頂きました。れんげ学園はその人的資源を有効活用して地域の子育て支援活動を展開すべく、武蔵村山市内に於いて令和4年度より不登校児童の居場所支援事業を社会福祉法人公益活動の一環として開始する事と致しました。このように、ハードウェアの整備を完了したからこそ可能な子育て支援の方策を模索しながら、その過程において有用な人材を育成して行く所存ですので、今後共関係者の皆様には更なるご協力を賜りたくお願い申し上げます。

れんげ学園 本園改築プロジェクト

感謝の集い ～ 感謝状授与式

2013年からスタートした「れんげ学園本園改築プロジェクト」は、2020年春に児童棟が、よく年1月には管理棟が完成し、すべての工程が修了しました。

本来であればご支援、ご鞭撻いただいた皆様を新園舎にお迎えして落成式と祝賀会を行う予定でした。しかしながら、コロナ禍で叶わず、完成から約1年後の12月8日に、感染対策に配慮したうえで、ごく少数の方をお招きして感謝の集いを開催致しました。

当日の司会は、副施設長の岩崎光太郎が担当致しました。新型コロナウイルスの感染拡大により緊急事態宣言が発出されたり、まん延防止等重点措置がとられたことから、皆さまへのご報告が遅れたこと。また、感謝状授与式では感染防止のため、ご来場者の皆さまに十分なおもてなしができないことを冒頭にお詫びし、式が始まりました。

式では、まずはじめに法人理事長の佐々木晶堂より、ご来場の皆さまへ挨拶がありました。今回のれんげ学園立替え事業へのご支援について感謝の意をお伝えするとともに、立替えプロジェクトに関わったれんげ学園職員へのねぎらいの言葉もありました。



その後、佐々木理事長より、お招きした企業などの代表者様お一人、お一人に、感謝状が手渡されました。

ご来賓の皆様を代表して、五十嵐建設代表取締役の五十嵐様、株式会社スカイリブ環境計画の内島様より、大変心温まる祝辞を頂戴いたしました。



新園舎で暮らす子ども達の様子を撮影した動画を上映後、れんげ学園施設長の相澤靖から、子ども達に素晴らしい生活環境を整えて下さったことへの、感謝の気持ちをお伝えしました。また、この素晴らしい園舎を、れんげ学園の子ども達だけでなく、地域の子育て支援にも活かせるよう、新たな事業展開を計画していることについても話がありました。

最後に常務理事の佐々木榮子より、御多用の中、ご列席いただいた皆さまへの感謝の言葉で、感謝の集いは終了しました。

約1時間という短い時間ではありましたが、お世話になった皆さまに新園舎やそこで暮らす子ども達の様子をご覧いただき、直接感謝の気持ちをお伝えすることができた、大変充実した集いとなりました。

新型コロナウイルスの感染防止の観点から、今回は感謝状授与式にはお招きできませんでしたが、れんげ学園の本園改築プロジェクトに様々な形でご協力いただいた皆さまに、この場を借りて厚く御礼申し上げます。



めざす保育

コロナ禍の中、子どもたちも職員も寄り添いながら、生活しています。
自分で考え行動し、ありのままに自分らしく・あなたらしく生きる大切さを
日々考えています。

笑顔の花が咲くように、めざす保育への思いを綴りました。



めざす保育 知育あそび

知育あそびとは

れんげ保育園 茂木 東

法人の保育目標に「子どもの発見に共感し、考える力、生きる力、豊かな心を育て伸ばします」「一人ひとりの成長を見守り、挑戦する意欲をサポートします」とあります。知育遊びはこの考え方を大切にしている遊びです。

原型となったSI遊びは、J.P. ギルフォードの提唱する知能構造論に基づく教育活動で、ギルフォード氏は「知能はいろいろな情報の種類を、様々なやり方で巧みに処理していく、数多い能力の集合体である」と定義しています。現在、私は知育あそびの教材制作に携わっていますが、知能構造や子どもたちの発達を考えながらいかに楽しい教材を作成する事が出来るかチームの方たちと模索しています。また、印刷・カットも法人で行っているため、法人のオリジナルとなる物を作成している重要な仕事であると感じています。

大変なこともたくさんありますが、うれしいこともたくさんあります。それは子どもたちの貴重な姿が見られ

ることです。私が知育あそびの時間にうれしく思う瞬間は、子どもたちが問題を見て楽しみながら悩み、集中している顔を見ることができた時です。「難しい」「解らない」の壁にぶつかって悩んでいる時に、頭の中をフル回転させることは、脳神経の繋がりを強くすると言われています。知育遊びは、結果よりも過程を重視しています。何とか自分の答えを絞り出そうと集中する子どもの姿を見られると、将来この子が壁にぶつかった時になんとか切り抜ける力を今、身に付けているのではないかと感じます。とてもやりがいを感じられる仕事です。

ほっこりエピソード

まだ眠いSくん。午睡明け寝ほけながら靴下を取りに行きました。履こうとしたら眠くて座りながらまた寝てしまいそうになりました。その姿を見たHくんが、そつと靴下を履かせてあげていました。

主体性の大切さ

れんげ上北台保育園 三澤 裕紀子

私が知育遊びと初めて出会ったのは、園長先生の何気ない一言でした。何もわからないまま「知育遊び?」「知能因子?」聞いたことのない言葉がたくさん並べられていたことを今でもはっきりと覚えています。

公開保育を見た時に一人ひとりの子どもたちがわくわく、どきどき……子どもたちが主人公で先生の工夫を凝らした導入教材と、楽しい動きがけで驚きや疑問が出来た喜びこそが、次へのやる気につながりとても楽しく取り組んでいる姿が印象的でした。



また先生も子どもたちが自分で考え、自由にのびのびと遊ぶように見守りながら子どもの反応をそのまま受け入れ、気付きを大切にしながら競争させない、比較をさせない、子どもを信頼して任せ主体性を尊重している活動であることを知ることができました。

私自身知育遊び教材研究会に携わることで、子どもたち一人ひとりの「たのしい」「またやりたい」と思ってもらえるように試行錯誤しながら作成している中で、様々な経験のある先生方と一緒にやっていく中で、実際に形になって子どもたちが楽しく取り組んでいる姿をみるとうれしく思います。

日常の保育の中でも子どもたちの好奇心を引き出すような保育、「できた」「できない」ではなく自分で考え自分で気付いていく過程を大切に、子どもたちに色々なことを経験させていくことを大切にしたいです。

ほっこりエピソード

栗ののったケーキを食べている、おやつで「どんぐり、おいしいね」「うん、おいしいね」と子どもたちの中では栗がどんぐりに変わっていました。

子どもから学んだこと

れんげ砂川保育園 飯野 彩奈

私が知育遊びに興味を持ったのは、一年目4歳児を担当した際に行った時のことでした。子どもたちがいかに自主性をもって活動に取り組み、保育者が工夫をして活動を進めていくことが、子どもたちの成長につながっていると感じた瞬間、「どのように環境を整えたら、活動に自主的になってくれるだろう」「教材に集中できるのはどのような声掛けだろう」という疑問や知育遊びに対する面白さが出てきました。はじめの頃、知育遊びを行う際の導入で「みんなよく見てくれているね」「静かに聞いてくれてありがとう」とマニュアル通りに進めていましたが、なかなか子どもたちが活動に集中できなかったり、活動とは別のことに興味を示してしまったりと、反省すべき点が回を重ねるごとに増えていきました。

知育遊び委員になってから、知識を得ることができ、導入で子どもたちがどれだけ課題のねらいを意識できる

かがポイントだと学びました。指名をした子どもがホワイトボードの前に立ったら、子どもを信じて保育者は遠いところから実況をして、子どもが主役になるように環境を作り、課題のねらいに沿った声掛けをしていきます。「おっ、そのカードをそこに置いてくれた!」など子どもの発表を実況することで導入への注目が集まり、ねらいを飲み込みやすかったのです。学んだことを子どもたちに行ってみたところ、子どもたちの教材への取り組み方が変わったように感じました。環境の作り方、声のかけ方ひとつで子どもたちの意識が変わると知育遊びを通して改めて感じることができました。



笑顔のぬくもり

れんげ萩山保育園 渋谷 明美

さまざまな行事が縮小される中で、萩山は今年度「楽しむこと！」がアピールされてきました。「〇〇だからできない！」ではなく、「〇〇したら楽しい！」と発想を変えることで園の主旨に沿ったイベントへとつながっています。例えば、今年度初めて行われた、遠足ごっこに変わる「テーマパーク」は、園庭全部を遊園地のようにしたのです。眠っていた遊具を引っ張り出し、普段の保育で使っている遊具と並べ、壁のあちこちに動物の写真を貼って探検ごっこ。シャボン玉を飛ばし、子どもたちの歓声と笑顔でまさしく「ドリームランド」となって



いました。子どもたちが喜ぶ声、笑顔を思い浮かべながら作り上げた企画は大成功でした。

コロナで日常化している検温や消毒、そんなことも子どもたちは遊びの中に取り入れ、ブロックを体温計に見立てて「ピッ！」と言いながら楽しんでいるのです。

コロナで失われた物もたくさんある中で、保育園という施設の中では子どもたちの笑い声が響き渡り、子どもたちのキラキラ輝く瞳が日々発見や感動を探しながら生活しています。私たち保育者は小さな命の安全を守りながら、子どもたちの成長を保護者とともに喜び合いながら過ごし、子どもたちと触れ合う中で一人ひとりのぬくもりに支えられていることを実感しました。

コロナ禍の保育による成果

れんげ桜が丘保育園 石崎 早希

今年度もコロナの感染予防対策として、行事の縮小がありました。私は運動会係として準備を進めていきました。競技順・座席・職員配置等、コロナの状況下で子ども・保護者・保育者それぞれの視点から考えてベストな選択をしていくために、柔軟に工夫していくようにしました。完全入れ替え制でクラス別開催としましたが、保護者からはクラス別で行うことで見やすく良かったので今後も同じようにして欲しいという意見、他の学年の競技が見られず残念だったという意見等、様々な意見が寄せられました。



練習に参加し子どもたちを近くで見ていて感じたのは、競技数が減り残念な一方で、子どもたちが集中して楽しみながら競技に取り組んでいたということでした。今の社会情勢を感じさせない子どもたちの輝く笑顔と行事ができる幸せを心にとめて、たくさんの経験に時間を費やすことが出来ていたと思うので素晴らしい成果だと感じました。

また、現場に立つ職員から様々な改善点があげられたことをしっかりと受け止めながら、今後も子どもたちのために、より良い形を考えていくことが大事だと実感できました。

運動会だけではなく保育を行う中で、毎年同じことを行っていくのではなく、その時の状況を踏まえてどうしていくのが子どもたちにとって良いのかを話し合い、考えていくことが大事だと気付くことができて、私にとっては大きな成果を得ることが出来たと思います。



ひつじ雲を見つけた子どもが「見て！靴の後ろみたい！」と話す、隣にいた子が「本当だ。誰かが踏んづけたんじゃない？」と答えていて、かわいらしい会話に思わずほっこりしました。

変わらない子どもの笑顔

れんげ砂川保育園 大谷 郁

新型コロナウイルス感染症が流行して2年が経とうとしています。コロナ禍での保育は、戸惑いや不安もありました。検温をしてからの入室、手洗いや手指消毒、職員や保護者のマスク着用が定着してきましたが、子どもたちは素直な心で無邪気に笑いながら日々を楽しく過ごす姿がたくさん見られました。今まで出来たことが出来なくなってしまい、子どもたちに「我慢させているのだろうか」「どうすれば今までのような保育ができるのか」と悩むこともありましたが、保育の中で行う制作や遊びを今までと変わらず素直に楽しんでいる姿にホッとします。行事に向けても意欲的に取り組み準備する姿など、子どもたちは周りの友達からの影響もあり園生活の中で日々成長を感じています。

今現在、少しずつ感染者も減ってきて園外に散歩に行くこともでき、活動範囲が広がったり気分転換ができ喜ぶ姿も見られました。この状況の中、子どもなりに周りを見て対応しているのだと感じられました。保育園では様々な行事があり、コロナ禍でもどのようにしたら開催できるのか、第一に子どもを優先に考え、できないからこそできる範囲で、子どもが主体性を持って行えるように、「遠足ごっこ」「お祭りごっこ」など行うことができ、「楽しかった」と満面の笑顔で言ってくれ、私たち保育士も「やってよかった」と実感することができました。普段の子どもは様々な遊びを通して主体的に関わり、楽しみながら成長をしています。そうした子どもの日常の姿を見せられる機会を増やすことの大切さを、子どもたちの笑顔から気づかされました。



一時預かりでは、定期的な利用でないと保護者との関係が深いとはいえません。

しかしコロナ禍で交流が少ない今、利用者から「家族以外と話すの久しぶりです。話すだけで気分が全然違いますね。ありがとうございます」と言っていただけ、コロナ禍だからできる保護者支援もあるのだと、温かくうれしい気持ちになりました。



身についたこと、希望を持って目指すこと

れんげ武蔵保育園 秋山 衣美南

コロナウイルスが流行し、今まで行っていた地域の方々との関わりや散歩が難しくなり、行事も消毒や距離を意識したものに替わり、日々の保育も変化しました。私はコロナウイルスの流行とともに就職し、それ以前の保育を知りませんでした。しかし日々どんな活動を行おうかと考えていく中で、子どもたちに経験させたいことがコロナにより制限されてしまう、という場面に何度も直面しました。

四季は過ぎていくのに、散歩に行き、季節の自然に触れることが難しい。感染対策のために保育者はマスクの着用が当たり前となり、表情が見えない。難しくなったことがたくさんありましたが、制限されることが増えたからこそ、見えなくなったからこそ意識したこともたくさんあります。マスクで表情が見えないため、声や仕草で表情の代わりに感情を伝えられるように意識しました。また保護者の方々に日々の成長を見てもらう機会が減ったことで、短い送迎の時間の中で子どもたちの様子、成長など伝え方を工夫しながらより多く伝えることを心掛けました。制限されてしまうことや難しいことが増えたことで、当たり前に出ていたことに頼り切らず、どうしたら良いか考えることが出来たのだと思います。これから制限されていたことが緩やかになっていくと希望を持ちながら、子どもたちとたくさんの経験・発見を行っていきけるような保育をしていきたいです。



子どもから学んだこと、 気づかされたこと



子どもから学んだこと

れんげ上北台保育園 粕谷 孝二

私は現在、加配という立場で様々な子どもに関わっています。コミュニケーションの面で難しさを感じますが、全く取れないわけではありません。子どもに出会った当初は何が欲しいのか、どこへ行きたいのかがわかりませんでした。しかし長い時間を共に過ごしていく中で子どもの伝え方の特徴を見つけ、その子が何を伝えようとしているのか理解出来るようになりました。例えば「あー」という発語でも、“これは嫌な時の声だな”や“これは嬉しい時の声だな”と私は判別がつくようになりました。その子の次の行動を予想したり、“これがあれば落ち着くだろう”と考えたりしてその通りになると、子どもの発信を受け取ることができ、少しはこの子を理解できたのだとうれしくなります。また子どもから勇気をもらうこともあります。それはその子どもの新たな発見が出来た時です。保育者が“これは難しいだろうな”と思っても、声を掛けてみると子どもが難なく出来ることもあります。そこから“次はあれをやってみたいな”と連鎖的にその後の支援につながり、私の仕事のやりがいになります。もう一点、勇気をもらえることがあります。それは私が準備したもので子どもの出来ることが増えていくことです。手順表や生活の流れを用意し、最初は見ながら行っていたものが、数週間練習すると見なくても出来るようになる姿を見て、“この子も頑張っているんだな”と実感しました。今後も支援を求められている子どもや親御さんと連携していき、ともに成長していきたいです。

子どもたちとともに成長したい

れんげ第二桜が丘保育園 高橋 百合弥

子どもたちと一緒に過ごすことで、一日一日の大切さを感じています。新任の頃、目の前のことに必死でしたが、今は子どもたちが経験を積んでいくうちに、昨日まで出来なかったことが日々出来るようになっていく姿に感動し、その瞬間に関わることができることをとてもうれしく思っています。一人ひとりが今どのように成長し発達しているかを考え、援助の仕方や安全面・環境作り等、工夫をしていくのは難しさも感じますが、子どもたちが成長していく過程に関われるのは保育者としての喜びだと思っています。

子どもたちと一緒に過ごし、印象に残っている出来事があります。園庭で遊んでいる時に、落ち葉が落ちて枝だけになっている木を見上げ、「なんで葉っぱがないの?」と聞いてきました。この一言に、毎日何気なく見ていた景色に、ただ季節の移り変わりを感じていただけの自分に気付きました。子どもの目線で考えるとはこのことだと改めて感じ、様々なことに気付き疑問に思うこと・知ろうとする力は、大人になっても持ち続けなければならないと思いました。子どもたちと一緒にいると、自分自身が感じなかったことや気付き、発想、そして友だち同士で考え合う喜びも実感します。純粋な気持ちを大切に、子どもたちとともに成長し続けていけるような保育者でありたいと思っています。



「お月さまってどんなあじ?」の絵本を読んだ日。夕方テラスに出ると、きれいな三日月。その月を見て、「あーお月さま、誰か食べちゃったよ……」と男の子。「ねずみさんだよ」「ちがうよ先生だよ」と会話が弾んでいました。

子どもから学んだこと

れんげ南街保育園 土田 早紀

日々子どもたちの成長を身近に感じることができ、毎日楽しさや、喜びなど様々な気持ちを得られ、学べることができるこの仕事が私は大好きです。

子どもに気付かされることは一日の中にたくさんあります。毎日行っている活動、制作など、その日その日の子どもの反応や会話により、工夫をして進め、見直したり、反省を行いながら、次に活かそうと考えます。こうして私は子どものたちのお陰で保育士として成長できていることを感じています。

運動会、お遊戯会等の行事でも、どうすれば子どもが

楽しく、期待を持ち参加できるか、友達と同じ目標に向かい、力を合わせたり、達成感やうれしさを味わえるかを考えて行っています。どの行事でも練習や友達とのやり取りの中で、担任が思っている以上に一人ひとりが自信がつき、成長する姿を見せてくれます。行事の朝は、いつもと違う雰囲気戸惑う子もいます。その子に「一緒に行こう」と声をかけた子どもの姿に感動しました。幼児クラスになると、子どもにとって友達の存在の大きさに、改めて気づかされました。毎日の生活の中で、子ども同士の関わりや、活動が思うようにならずに、悩むこともあります。その悩みを解決してくれるのは子どもです。学びや気付きをくれる子どもたちに感謝し、これからも子どもの笑顔を守っていきます。



ほっこりイベント 戸外遊びを楽しんでいると、子どもたちは上を見上げ、「葉っぱの色が変わってる!」「上は赤いのの中に下は黄緑色だよ」と紅葉の色の変化に気付き、嬉しそうに知らせにきました。



私が目指す保育

れんげ保育園 大場 安希菜

私は子どもの頃保育園が大好きでした。

朝も泣かずに登園し、親が早く迎えに来ると怒り、土曜日にも保育園に行きたがっていました。

友達と遊ぶのが楽しくて、保育園にいた先生方が大好きだったのだと思います。家に帰ってからその日の楽しかったことを親に話したり、次の日の朝には今日は何をして遊ぼうかななどを考えて保育園に行く毎日がとても楽しかったです。

4月から実際に保育士として働いてみて、ペープサートやパネルシアターの歌を子どもが歌っていたり、前に行った遊びや活動を今日もやりたいと言ってくれたり、保育園での出来事や楽しかったことなどを家庭で話したりと、子どもの園での様子や育児日誌を見て、とてもうれしく思いました。

反対に、朝、保護者の方と離れるのが寂しく保育園に行くのを嫌がってしまう子どもや、園で過ごしている途中で寂しくて泣いてしまう子どもがいると、遊びや活動

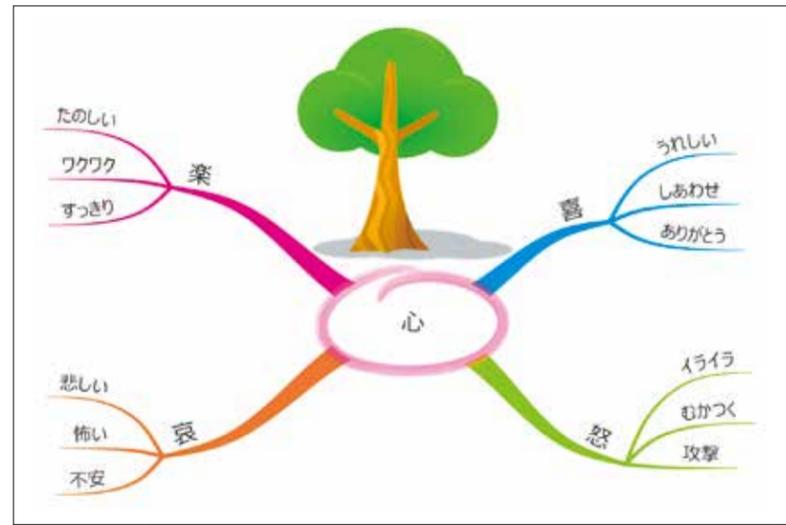
を通して楽しんでもらいたいなと思いました。

私は、子どもに「今日も保育園楽しかった」「保育園に行くのが楽しみ」「早く友達や先生に会いたい」と思ってもらえるような保育を行い、子どもにとって保育園が楽しい場所だと感じてもらえるようにしていきたいと思っています。

そのために、保育の活動内容がマンネリ化等しないように新しい活動や遊びを考えながら保育に取り入れていき、何よりも子どもと一緒に楽しみながら保育を行っていきたいです。



めざす保育 保健



コロナ禍における保健指導の取り組み

安心できる保育園生活を送れるように、多職種の職員と協力しながら援助するのは看護師の役割の一つです。
 新型コロナウイルス感染症対策を続ける中、保健指導も、三密を避けるため少人数で行うようにしました。手洗い指導を実際に行ってみると、手をこすり合わせる事が出来ない子、大人よりしっかり手首まで洗える子など、一人ひとりの新しい個性を発見する機会になりました。「楽しかった。もう一回やりたい」という子どもの声も聞かれ、充実した時間を過ごすことが出来ました。

このように感染リスクを下げる取り組みをしていく中で、子どもたちの順応する力や何事も楽しむ姿勢に感心しました。これからも子どもたちが自分の身体を守れるように大切なことを楽しく伝えていきたいと思っています。



ほっこりエピソード

おでこをぶつけてしまい冷やしていたRくん。それを見ていたRちゃんが冷やしタオルをおでこに当てて「大丈夫？」とばかりに顔を覗き込み、何やら声掛けをしていました。優しい姿にほっこりしました。



コロナ禍における子どもの心～保育園看護師として目指すもの～

コロナ禍において、私たちは新しい生活様式を強いられており、子どもたちの心の影響が心配されています。今年度は保健の作品展のテーマを「心」としました。

心があるから毎日楽しく生き生きと過ごすことができます。時には悲しい、悔しいと感じる経験を通して、私たちは大きく成長していくのだと思います。子どもたちが心身ともに健やかに成長し、未来へこの笑顔をつないでいくためにも、家庭と保育園でたくさんのスキンシップや関わりを持つことが必要です。

また、私たち職員を含め、周りの大人の感情は子どもに反響しやすいものです。保育園看護師として子どもたちだけでなく、保護者の方の心が温かくなったり、安心できるような対応に日頃から努めています。子どもたちの綺麗で繊細な心がすすすく育つように、みんなで大切に見守っていきたく思います。

めざす保育 給食



食を通してつながりを大切に

れんげ萩山保育園 関口 斐智

今年のれんげ萩山保育園のテーマは「おはなし」です。子どもたちに「おはなし」の中から何かを感じ楽しく過ごしていけるようにと考えました。給食室では、お魚が苦手な子にも興味を持ってほしい。食物連鎖について知ってほしい。という気持ちから絵本の「スイミー」をテーマに食育をしました。お魚メニューの当日、スイミーのおはなしを読み、「皆の目の前にお魚もスイミーのように元気に泳いでいたんだよ。今はどうかな？」



と問いかけると、「死んじゃった……」と悲しそうな表情で返ってきました。「大切な命をいただいているから、感謝して食べようね」と伝えると残さず食べる様子が見られました。

また、園で提供しているお魚は骨を抜いているので、魚に骨があることを知らない子どももいます。子どもたちに馴染みのある「かわいいかくれんぼ」から、魚の骨の替え歌を考え、歌に乗せて骨のイラストに色塗りしてもらいました。「骨がいっぱいある！」と言って魚には骨がたくさんあることを知ってもらうことが出来ました。

また、感染症対策のため保護者会等、園の行事が減り、保護者の方とも関わる機会が減ってしまいました。そこで、毎月子どもたちに旬の食材の食育を行っていたので、保護者の方にも役立ててもらえるような美味しい食材の選び方や保存方法、栄養について記載した手書きのカードを毎月展示しました。お迎えの時間に子どもたちと保護者の方がカードを見ながら食べものについて話をしている様子もみられうれしく感じました。

どのような環境の変化があっても、食を通して子どもたちや保護者の方とのつながりを大切に、今後も一緒に楽しみながら毎日を過ごしていきたいと思っています。

保育園の給食

れんげ保育園 野川 貴希

れんげ保育園に努めて5年目になりました。初めての保育園での集団調理を経験し、今まで気づかなかったことや新しく学んだことがたくさんありました。

昨年度は各園の調理師が手作りドレッシングの研究をし、レシピ集を作り作品展のお土産として配布しました。

今年度は統一献立に伴う調理実習に参加しました。法人では統一献立を行っており、法人内の保育園では毎日同じ給食を提供しています。

しかし各園それぞれの調理の仕方や食材の切り方で行っており、同じ献立を作っているのですが違いがありました。

そこで各園の栄養士と調理師が集まり調理の方法や食材の切り方、味の確認、おやつ作りなどの見直しを

行うために、れんげ学園の調理室を借りて実習を行なうことになりました。

私は、ハンバーグソースを研究する会に参加しました。各園で考えたハンバーグに合うソースのレシピを持ち寄り研究し、試作や味見をして子どもが食べやすいソースを作りました。

さらに食材の切り方の実習にも参加して、各園どのように食材を切り子どもが食べやすい大きさや献立に合った切り方をしているのか話し合いました。これまでに学んだことをこれから活かしていき、子どもたちが喜ぶ美味しい給食作りをしていきます。



令和 2 年度会計報告

当法人においては、社会福祉法等に則り、令和 2 年度における法人内全施設の会計報告を以下の通り公表いたします。これらは当法人の監事による監査を受けて、理事会及び評議員会において承認を受け、さらに公認会計士による外部監査を経て作成したものです。

貸借対照表

令和 3 年 3 月 31 日現在 (円)

【資産の部】		【負債の部】	
流動資産	397,856,766	流動負債	127,299,331
現金預金	297,675,427	固定負債	59,630,000
未収金	93,006,199	負債の部合計	186,929,331
前払金	7,175,140	【純資産の部】	
固定資産	3,788,707,364	基本金	265,132,825
建物	1,515,015,806	国庫補助金等特別積立金	878,883,214
土地	132,340,644	その他の積立金	1,902,578,965
その他固定資産	2,141,350,914	次期繰越活動増減差額	953,039,795
		純資産の部合計	3,999,634,799
資産の部合計	4,186,564,130	負債及び純資産の部合計	4,186,564,130

資金収支計算書

(経営活動による収支)		(財務活動による収支)	
経常収入計	2,054,863,643	財務収入計	249,950,000
経常支出計	1,929,802,848	財務支出計	214,000,000
経常活動資金収支差額	125,060,795	財務活動資金収支差額	35,950,000
(施設整備等による収支)		(当期資金収支差額合計)	39,687,208
施設整備等収入計	119,556,726	(前期未支払資金残高)	302,683,185
施設整備等支出計	240,880,313	(当期末支払資金残高)	342,370,393
施設整備等資金収支差額	△121,323,587		

児童養護施設れんげ学園は児童福祉法による、虐待や保護者の疾病等の理由で、家族とともに生活することが困難な子どもたちが暮らす施設です。

後援会の皆様には行事等を通して子どもたちの成長を見守っていただいております。

年額 3,650 円を一口として、会費を納入いただき、上記会計報告のように物品寄贈を行ったり、将来の改築の際の備品購入に備えたりしておりますので、是非ご加入いただきたくお願いいたします。

お申込みはれんげ学園にて承ります。

TEL 042-565-8451 れんげ学園

後援会のおさそい

後援会会員及び寄付者御芳名

(令和 3 年 1 月～令和 3 年 1 2 月*順不同・敬称略)

- | | | |
|-----------|------------------------------|------------------------------------|
| 1 阿南 まりあ | 44 福島 正子 | 84 (株) セレモア |
| 2 伊藤 知一 | 45 福丸 由佳 | 85 セレリアンス (株) |
| 3 岩崎 利信 | 46 増澤 秀丸 | 86 全国シャンメリー協同組合 |
| 4 岩田 敏 | 47 松田 健太郎 | 87 (株) 双蹊 |
| 5 岩品 勝次 | 48 松本 丈武 | 88 多摩管友会 |
| 6 岩元 綾己 | 49 室井 順子 | 89 (株) チュチュアンナ |
| 7 内堀 清一 | 50 本橋 友美 | 90 (有) T H S |
| 8 梅谷 令子 | 51 森本 仁 | 91 (株) 包む |
| 9 岡原 宏一 | 52 山口 聡・佳津公 | 92 東京都環境公社 |
| 10 小川 泉 | 53 山城 清邦 | 93 東京都蒔蒨協同組合 |
| 11 風間 英昭 | 54 山添 一郎・紀子 | 94 (一社) 東京都信用組合協会 |
| 12 神山 勤 | 55 吉江 英利 | 95 東京馬主協会 |
| 13 川鍋 正晴 | 56 吉澤 久美子 | 96 ドミノピザ東大和向原店 |
| 14 川鍋 玲子 | 57 (株) I-ne | 97 日本鏡餅組合 |
| 15 木村 三郎 | 58 ありさんプロ (株) | 98 (一財) 日本児童養護施設財団 |
| 16 木村 由和 | 59 IKEA 立川店 | 99 (株) ニューあむーる |
| 17 清野 二美子 | 60 (株) 一蘭 | 100 走る電気屋さんハッピー |
| 18 黒石 信淵 | 61 イトーヨーカドー労働組合
東大和支部 | 101 光建設 (株) |
| 19 小嶋 兵庫 | 62 (株) ウインズ | 102 富士天然水蔵元「不二」 |
| 20 後藤 多美子 | 63 ウインズひまわり会 | 103 (株) 府中開治屋 |
| 21 小峰 美保子 | 64 (株) 小田急百貨店 | 104 (株) フレーベル館 |
| 22 小山 敏子 | 65 河原商店 | 105 文屋 |
| 23 佐々木 栄亨 | 66 (一社) 絆の会 | 106 ヘアーハウス K's |
| 24 佐藤 みはる | 67 協同食品サービス | 107 ほっともっと |
| 25 柴田 照代 | 68 清野運送 (有) | 108 ホリエタカフミノベーション大学 |
| 26 嶋田 孝司 | 69 (有) キヨノオートサービス | 109 毎日新聞東京社会事業団 |
| 27 東海林 躍人 | 70 (株) ケイジェイシー | 110 (株) マルハン 東大和店 |
| 28 菅沼 京子 | 71 国際ソロプチミスト東大和 | 111 (福) 幹福祉会東大和事業所 |
| 29 鈴木 英晃 | 72 コストコ入間倉庫店 | 112 (株) 三越伊勢丹 |
| 30 高橋 真明 | 73 後藤商店大和支店 | 113 (有) 村田石油 |
| 31 竹下 悦子 | 74 J A I F A 東京協会 | 114 モンテ物産 (株) |
| 32 田中 清春 | 75 J A 東京みどり東大和支店 | 115 山崎米店 |
| 33 田中 三喜男 | 76 (学) 実践学園 理事長内藤彰信 | 116 大和屋商事 |
| 34 田村 暢子 | 77 認定 NPO 法人
ジャパンカインドネス協会 | 117 横田西小学校 |
| 35 崔 恵慶 | 78 (株) ジャパンゲートウェイ | 118 (株) ラファエルコーポレーション |
| 36 永井 恵美子 | 79 (株) シャリオットホールディングス | 119 (株) 李蹊 |
| 37 野口 芳子 | 80 (特) 自立生活支援センター
東大和 | 120 ハーレークリスマス
チャリティーライドご参加の皆様 |
| 38 畑地 桂 | 81 新城医院 | 121 Amazon 欲しいものリストから
ご寄付下さった皆様 |
| 39 原田 真由子 | 82 セカンドハーベストジャパン | 122 東大和市社会福祉協議会を通し
ご寄付下さった皆様 |
| 40 半澤 一明 | 83 関田牛乳店 | |
| 41 平木 友子 | | |
| 42 比留間 タケ | | |
| 43 廣瀬 実子 | | |

れんげ保育園

〒207-0033
東京都東和市芋窪 3-1615
TEL : 042-565-3342
FAX : 042-533-5611

れんげ上北台保育園

〒207-0032
東京都東和市蔵敷 3-691-2
TEL : 042-563-3990
FAX : 042-561-5487

れんげ南街保育園

〒207-0014
東京都東和市南街 4-3-1
TEL : 042-561-2341
FAX : 042-561-2342

児童福祉施設 れんげ学園

〒207-0033
東京都東和市芋窪 5-1161-3
TEL : 042-565-8451
FAX : 042-563-8078

〈グループホーム つくし〉

〒207-0033
東京都東和市芋窪 4-1473-1
TEL : 042-537-8313

〈グループケアホーム たんぽぽ〉

〒208-0013
東京都武蔵村山市大南 3-134-8
TEL : 042-516-8835

〈グループホーム なでしこ〉

〒208-0003
東京都武蔵村山市中央 3-23-5
TEL : 042-516-9121



れんげ萩山保育園

【本園】〒187-0031
東京都小平市小川東町 4-3-18
TEL : 042-344-1486
FAX : 042-344-1466
【分園】〒187-0031
東京都小平市小川東町 4-3-1
TEL : 042-344-1484

れんげ砂川保育園

〒190-0001
東京都立川市若葉町 4-24-31
TEL : 042-536-5281
FAX : 042-536-5360

れんげ武蔵保育園

〒208-0012
東京都武蔵村山市緑が丘 1732-1
TEL : 042-561-3959
FAX : 042-561-3958

れんげ桜が丘保育園

〒207-0022
東京都東和市桜が丘 3-44-18
TEL : 042-567-4381
FAX : 042-590-7014

れんげ第二桜が丘保育園

〒207-0022
東京都東和市桜が丘 3-44-32
コーシャハイム玉川上水 3号棟 103
TEL : 042-516-8155
FAX : 042-569-8398

★ご協力いただいている第三者評価のアンケート及び受審の結果はインターネットでご覧になれます (www.fukunavi.or.jp)。
尚、園の詳細については各園のホームページをご覧ください。

毎年、保育活動に貢献した方を、
法人全体研修時に表彰しています。

【令和3年度 表彰者】

れんげ砂川保育園	保育士 (非常勤)	小野 直美
れんげ萩山保育園	保育士	石山 理絵
	保育士 (非常勤)	佐藤 高子
れんげ南街保育園	保育士	廣重 真沙美
れんげ武蔵保育園	保育士	佐藤 宣子
	保育士 (非常勤)	萩原 由佳
れんげ上北台保育園	保育士	平泉 彰子
れんげ桜が丘保育園	保育士	植原 京子
	保育士 (非常勤)	水島 さだ子
れんげ学園	児童指導員	飯田 知顕

● 編集後記 ●

今年度も、新型コロナウイルスによる非常事態宣言が発令され、心配や不安な気持ちが心の中にある一年でした。そのなかで、職員も自分の保育を大切に、その思いを綴りました。

職員一同希望を持ち、子どもたちと心を豊かに過ごしていきます。

【広報委員】

向田 眞奈美	杉本 こずえ
石山 理絵	植原 京子
渡辺 恵子	高橋 ひとみ
川里 佳代	立神 由美子

れんげだより No.37 令和4年3月31日
発行/社会福祉法人 蓮花苑
〒207-0033 東京都東和市芋窪 3-1615
TEL : 042-565-6811